

## 2016年度 第2回 鋼構造運営委員会 議事録

1. 日時 平成28年7月25日(月) 13時00分～16時30分
2. 場所 建築会館
3. 出席者 多田元英, 五十嵐規矩夫, 井戸田秀樹, 岡崎太一郎, 岡本哲美,  
(敬称略) 兼光知巳, 木村祥裕, 向野聡彦, 下川弘海, 竹内 徹, 寺田岳彦,  
中込忠男, 成原弘之, 平島岳夫, 緑川光正, 見波 進, 宇佐美徹(記録)  
欠席:一戸康生, 越智健之, 笠井和彦, 澤本佳和, 田川泰久, 田中 剛,  
津田恵吾, 原田幸博, 西山 功, 増田浩志
4. 配付資料
  - 02-01 2016年度第2回鋼構造運営委員会議事予定(多田主査)
  - 02-02 2016年度第1回鋼構造運営委員会議事録(案)(宇佐美)
  - 02-03a 構造本委員会の動き(多田主査)
  - 02-03b グローバル時代を生きぬくことができる建築人の育成特別委員会中間答申書(多田主査)
  - 02-03c 規準・仕様書等のあり方検討タスクフォース報告書(多田主査)
  - 02-04 鋼構造座屈小委員会(井戸田幹事)
  - 02-05 鋼構造接合小委員会(増田委員)
  - 02-06 鋼構造耐火設計小委員会(平島委員)
  - 02-07 鋼構造環境小委員会(兼光委員)
  - 02-08 鋼構造素材小委員会(見波委員)
  - 02-09 鋼構造塑性設計小委員会(五十嵐委員)
  - 02-10 鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(岡崎委員)
  - 02-11 鋼構造関連規準改定小委員会(田川委員)
  - 02-12 2016年度大会 PD(平島委員)
  - 02-13 2017年度大会検討資料(多田主査)
  - 02-14 鋼構造運営委員会重点審議 鋼構造環境小委員会(兼光委員)
  - 02-15 質疑回答の一覧(井戸田幹事)
  - 02-16 次期鋼構造運営委員会主査選挙について(案)(多田主査)

## 5. 議事内容

- (1) 資料 02-02 に基づき前回議事録の確認を行い, 承認された.
- (2) 資料 02-03 に基づき多田主査より構造本委員会の動きについて説明がなされた.
  - ・ 研究助成(鹿島, 竹中, 東レ)結果の報告がなされた.
  - ・ 特別研究委員会は 9/15 までに, [若手奨励] 特別研究委員会は 10/20 までに設置提案があれば事務局に提出のこと.
  - ・ 鋼構造関連の 2015 年度出版物販売状況, 2015 年度講習会・シンポジウム等開催結果の報告がなされた.
  - ・ 2017 年度大会は 8/31-9/3 の 4 日間で広島工大にて開催される. 4/18 にプログラム編集委員会を開催する.

- ・ 2016 年度大会の投稿数は 2648 編で、その内鋼構造は 364 編。
- ・ 2016 年度大会の若手優秀発表賞は、構造 4 分野で実施される。2017 年度以降の実施を検討するのが良いかもしれない。
- ・ 鋼構造関連の 2016 年日本建築学会賞（論文）受賞者記念講演は山田先生(東工大)と藤田先生(山口大)。
- ・ 論文集の国際化に関する動向と、新英文誌検討タスクフォースとして、黄表紙論文のフォーマットが来年 1 月から変更となり、図表キャプションと参考文献の英文化等が変わり、JAABE とは別の英文誌を作ることが報告された。
- ・ 規準・仕様書等のあり方検討タスクフォースとして、指針等に免責事項などを記述することが報告された。  
→鋼構造塑性設計指針、柱脚設計施工ガイドブックにも記述する。詳細は事務局へ確認。
- ・ 小委員会主査は 2017 年度委員会活動計画案・予算原案および関係書類を 10/21 までに提出のこと。
- ・ 2016 年度委員長裁量経費に規準・指針の英文化作業に対して申し込み、30 万円が鋼構造運営委員会に配分された。
- ・ 2017 年度大会のオーガナイズドセッション実施と研究発表部門細分類・細々分類で変更があれば、10/31 までに申し出ること。
- ・ 大会梗概で連続して複数応募する場合は、各編が独立した内容であること(参考文献、まとめ、謝辞の最終編のみの記載は NG)。
- ・ 鋼構造塑性設計指針の本委員会査読回答状況が報告された。
- ・ 各種アンカーボルト設計 WG の設置が承認された。

(3) 資料 02-04~02-11 に基づき各担当委員より小委員会の報告がなされた。

座屈小委員会(資料 02-04, 井戸田幹事)

- ・ 今後のスケジュールが報告された。

接合小委員会(資料 02-05, 多田主査(増田委員代理))

耐火設計小委員会(資料 02-06, 平島委員)

- ・ PD のまとめは見波委員に依頼した。
- ・ 鋼構造耐火設計指針は本委員会査読中で、9 月末に結果が出てくる予定である。

環境小委員会(資料 02-07, 兼光委員)

素材小委員会(資料 02-08, 見波委員)

塑性設計小委員会(資料 02-09, 五十嵐委員)

- ・ 講習会のスケジュールを調整中である。

鋼構造関連規準・指針の英文化小委員会(資料 02-10, 岡崎委員)

- ・ S 規準はタイプエディティング(文法の確認)にかかる外注経費を AIJ 国際委員会へ依頼した。この結果を反映したことを示し、構造本委員会の査読者に確認する予定である。
- ・ 鋼構造接合部設計指針は、9/20-21 で一次原稿が完成予定である。

鋼構造設計規準改定小委員会(資料 02-11, 田川委員)

- ・ 次回は 8/6 に開催予定。

- (4) 資料 02-12 に基づき平島委員より 2016 年度大会 PD について説明がなされた。
- ・ ディスカッションの質問者は小委員会で検討する。
  - ・ ヤング係数に関するデータは指針内にある。
  - ・ 耐火構造の場合に、仕様規定あるいは性能規定に基づき設計を行い、当該指針は性能規定に則した内容と考えている。
- (5) 資料 02-13 に基づき 2017 年度大会 PD について議論がなされた。
- ・ 「モニタリング」や「損傷度評価」をキーワードとした PD ができないか、伊山先生(東大)や倉田先生(京大)に問い合わせるが、難しければ来期は見送る。
- (6) 重点審議として資料 02-14 に基づき兼光委員より環境小委員会の活動内容について説明がなされた。
- ・ ロンドンでの鋼構造のリユースの普及が進まない要因のアンケート結果は、日本の状況と変わらない。
  - ・ ビジネスモデルの検討として本設材を仮設材としてリユースする方法等、いくつか考えているが、まずは具体的に取り組む方向で考えている。
  - ・ 小規模店舗のリユースのコストは新築時の 5 割が目標であるが 7 割程度である。
  - ・ 付着物の除去にコストがかかるので、簡便に除去できるものしか付けられない等の取り組みが必要。
  - ・ RC のリユースは、ストック施設等のシステム整備と運搬(重量)が課題である。
  - ・ CO<sub>2</sub> の削減量の算定方法は指針内に記述してある。
  - ・ 自動車の分野では国の取り組みもあり、リサイクル・リユースが進んでいる。
- (7) 資料 02-15 に基づき井戸田幹事より、学会図書の質疑回答状況について確認がなされた。
- (8) 資料 02-16 に基づき多田主査より次期鋼構造運営委員会主査選挙について説明がなされた。
- ・ 8 月に事務局より選挙の案内を出すので、各自投票をお願いしたい。開票は主査、幹事、事務局で行う。

## 6. その他

- ・ 今後の重点審議は次の通り。
  - ◇ 2016 年度第 3 回(11/25)運営委員会:なし
  - ◇ 2016 年度第 4 回(3 月)運営委員会:S 規準改定小委員会
- ・ 次回の運営委員会の日時、場所は以下の通り。
  - 第 3 回 2016 年 11 月 25 日(金), 13:00-17:00, 於:建築会館